

仲町小

学校だより

メールアドレス e-mail : nakacho-e@saitama-city.ed.jpホームページアドレス <http://nakacho-e.saitama-city.ed.jp/>

別所沼公園で学ぶ

校長 河野 秀樹



令和5年度1学期の始業式では、体育館で子どもたちが元気に歌う校歌を聞くことができました。本校校歌の作詞者は、詩人の神保光太郎先生です。私は中学生時代に、当時別所四丁目に住まわれていた先生が散歩しているのを見かけ、「こんにちは」と挨拶をした記憶があります。先生は本校のほか、常盤小や岸町小、針ヶ谷小、木崎中、埼大附属小（第2校歌）、埼大附属中など、多くの学校の校歌を作詞されています。また、別所沼公園には先生の詩碑が建立されています。

昭和初期の別所沼周辺には神保先生のほか、須田剋太氏、里見明正氏ら多くの画家がアトリエを構えていました。当時、浦和には画家が多く住んでいて、文学者の多い鎌倉と並べて「鎌倉文士に浦和画家」と言われていました。画家以外にも、彫刻家や詩人が居て、文化人同士の交流もあったそうです。詩人で建築家の立原道造氏は、1938（昭和13）年、友人である神保先生が住んでいる近所に、自らのために小さな週末住宅を建てようと考えていました。神保先生への手紙にも「ヒアシンス・ハウス（風信子荘）」のことが記されています。しかし、肺病を患い翌年24歳8か月の短い生涯を閉じたため、夢が実現することはありませんでした。神保先生は立原氏について、こう述べています。

彼は絶えず夢を語っていた。詩集をつくる夢、家を建てる夢、旅の夢、愛人の夢。そして、彼の異風な詩集も、私が幾度かきかされた夢のひとつの実現であった

立原道造詩集 神保光太郎編 白鳳社より一部抜粋

その後、立原氏の夢を叶えようとする市民運動が盛り上がり、2004（平成16）年に別所沼畔に写真にある小住宅が建てられました。私は先日ここを訪ね、ボランティアガイドの方から立原氏や建物のこと、維持の活動などについて教えていただきました。開室は、水曜・土曜・日曜・祭日、午前10時から午後3時までで、見学は無料だそうです。

6月、4年生は図工で別所沼公園にあるこのヒアシンス・ハウスを訪れ、立原氏の夢の家について教えてもらいます。そして、子どもたち一人一人が木々の中にある「自分の夢の場所」を考えて描く学習を行います。これは、さいたまアートセンタープロジェクト2023 アウトリーチプログラムの一環で行う活動です。講師は、本校の近所にお住まいの埼玉大学教育学部教授・現埼大附属小学校校長の石上城行先生です。完成した作品は、さいたま国際芸術祭2023の期間（10/7～12/10）に展示される予定となっています（展示時期等は未定）。

本校では、地域とともにある学校を目指し、教育活動の中で地域のヒト、モノ、コトを取り上げた授業を積極的に行うようにしています。子どもたちはこのような学習を通して、日頃家族や友達と遊んでいる場所が歴史の舞台になっていることや、地域の方々がそれらを大切に保存・継承していることを知り、感嘆することでしょう。このような学びの積み重ねが、自分たちが住んでいる地域に対する親しみや愛情を育むことにつながると考えます。保護者や地域の皆様には、引き続き本校の教育活動の推進に御支援御協力をお願いいたします。

参考：ヒアシンスハウス・ガイドほか